

外国人支援・多文化共生ネット報告会 団体紹介 (No. 1)

名称：特定非営利活動法人 愛伝舎

活動分野：多文化共生の社会づくり

代表者：坂本久海子

住所：〒510-0211

三重県鈴鹿市東旭が丘 3-5-3

メロディハイツ II 102

TEL：080-3667-5129

活動エリア：三重県

設立年：2005年

MAIL: sakamoto@aidensha.org

URL: <https://aidensha.org/>

活動方針：人口減少が加速する中、外国人との共生は日本の社会の大きな課題です。外国人を地域の構成員として社会を担う人材と捉え、総合的な支援を目指しています。多様性が豊かさにつながるような活力ある社会づくりを進めます。

活動概要：

【教育支援】カエルプロジェクト（三井物産㈱事業）・外国人生徒キャリアサポート事業（三重県教育委員会）・多文化子育てサロン事業（WAM助成事業）など

【生活支援】心と体の健康相談会（赤い羽根休眠口座）・生活相談・情報配信（三重県事業）など

【就労支援】就労のための日本語と就労支援（中部圏地域創造ファンド事業）など

提言：・日本社会の構成員として必要な（来日前、来日後）基礎知識の習得

- ・外国人への日本語学習機会だけでなく、安定して働くための就労支援の充実
- ・多文化共生の担い手としての人材育成と、活動基盤の強化

新型コロナウイルスの感染予防に関する外国人への情報の配信



新型コロナウイルスの感染は、外国人コミュニティでもクラスターが発生し、日本社会側からの情報伝達も課題となりました。

ワンストップセンターでの通訳の対応や、多言語メッセージが用意されていますが、外国人まで届いていない場合もあります。そこで、行政からの情報を直接伝えるため、次の3つの活動を行いました。

- ①外国人が多く利用する商業施設でのチラシの配布
- ②保育園・学校での予防セミナーの開催
- ③三重県在住のスペイン語・ポルトガル語話者を対象としたSNSによる情報配信

外国人への情報配信は、感染予防や防災のみならず各種生活支援などにおいても重要であり、SNSでの配信と対面での提供など複数のアプローチで進めていく事が効果的と考えます。

活動を通してのネットワークづくり



これまでの日々の活動から、他の団体や行政機関との連携の重要性を痛感し、行政・市民団体（NPO）・外国人コミュニティとの連携の中で地域づくりを進めています。

顔の見える関係を作り、広げていく事で、地域の担い手、社会の構成員として共に暮らす人との「共生社会づくり」が実現されると思います。個々は小さな団体ですが、連携することで学び合い、情報、知見の共有となり、社会の課題に対する視点が広がりました。



特に「外国人支援・多文化共生ネット」では、他の外国人支援団体との協働事業を2件実施。個々の団体による「点の支援」を複数団体による「面の支援」として行うことができました。

こうした活動実績もあり、公益財団法人トヨタ財団の2021年度「国内助成プログラム」において外国人支援・多文化共生ネットの事業が採択されています。

就労支援



新型コロナウイルスの感染で外国人も失業や収入減少などの影響を受けています。そこで、一般財団法人中部圏地域創造ファンドによる「新型コロナウイルス対応緊急助成」の事業として、鈴鹿、四日市の企業を中心とした外国人向けの会社説明会を実施しました。

建設業、運送業といった人手不足のある業界で2名が正規採用され、採用した企業からは今後も外国人の雇用について前向きな声がありました。

また、愛伝舎では、これから社会に出る若者への教育と支援も重要だと考えます。そこで、2019年度から三重県教育委員会の事業として「外国人生徒キャリアサポート事業」を実施しています。

外国籍の生徒が多く在籍する県立高校2校でセミナーを開催したところ、生徒だけでなく保護者も、正規・非正規雇用の待遇の差や社会保障制度の違いを理解していないとわかりました。

定住する外国人に、より安定して働けるための教育の機会と支援が求められます。教育現場、企業関係者との連携を進め、彼らは日本社会の担い手であるという認識を共有して、人材育成に取り組みます。

